

議事録

2025.12.13 記 高田

神奈川県剣道連盟 第9回幹部会議

日 時：令和7年12月4日（木） 13：00～16：50

場 所：神奈川県立武道館

出 席：野見山会長、佐藤副会長、吉村副会長、小山副会長、松原副会長、飛知和副会長、上野副会長
高野副会長、伊藤専務理事

事務局：中島事務局長、高田副事務局長

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議 題

【協議事項】

（1）県連 通報制度運用管理規程（案）について（資料1）

伊藤専務理事より原案の説明があり、討議の結果、

第6条第2項に、「専務理事は、相談事案により、該当する支部に調査を依頼し、報告を求めるものとする。」という条文を追加し、文案を整理のうえ、メールで確認いただき、理事会に提案することとなった。

（2）大会・予選会の会場数と審判員数及び会場係員の補員について

- ・各大会予選会における会場数、審判員数、試合数を整理し、特に「審判員1人あたりの担当試合数」が多い大会もあり、審判員・係員への負担軽減のための見直し案が提案・協議された。

主な整理結果は以下のとおり。

◎国スポ予選会：試合終了が遅くなっており、会場数を3会場に増やす。

◎県青少年剣道選手権大会：1会場あたり審判員を10名とする。

◎シニアフェスタ：4会場、1会場あたり審判員8名とする。

◎会場係員：昼休みなしで実施する個人戦予選会については、各会場4名体制から5名体制に増員する。

◎大規模大会や予選会では、支部負担軽減のため、大学剣道部の学生に会場係員として協力を依頼する運用を継続・拡充する方針が確認された。

以上の対応を新年度から実施する、一部本年度内でも実施、ことで合意された。

審判員・係員の増員に伴い、大会経費や参加費への影響について今後検討が必要との認識も示された。

（3）武道館一般稽古について

1. 師範助手の選出・体制

- ・来年度の一般稽古における師範・師範助手の体制について確認・決定を行った。

2. 参加者募集範囲（対象年齢）の見直し

- ・現行では火・水・金の17時半からは「小学生のみ」。
- ・中学校に剣道部がないため、卒業後に剣道をやめてしまうケースが懸念される。
- ・小学生枠に中学生も参加可とする案を検討中（現状でも例外的に中1が1名参加）。
- ・個人判断での受け入れは不可とし、全体の合意・正式決定が必要。

3. 参加費・会費の見直し

- ・現行：1回300円、月2000円、年1万円。
- ・財政状況は比較的安定しており、大幅な値上げは不要。
- ・ただし大人（一般）の年会費については、
- ・年1万円 → 年1万2000円に改定することで合意。
- ・月・3か月・6か月の料金体系は現行維持、子ども（高校生以下）は据え置き。

4. スポーツ保険

- ・任意だが、原則として加入を勧める方針を継続。
- ・新規参加者には都度説明を行う。

（4）指定審査員・審判員研修会の実施内容と講師について

- ・拡大幹部会議で検討する

（5）剣道女子合同稽古会・一般合同稽古会の皆勤賞・精勤賞について

◎皆勤賞・精勤賞の対象者数（11月実績まで）

- ・参加者72名、指導者14名

※12月分未反映のため、最終人数は増減する可能性あり。

昨年度実績との比較

- ・昨年：参加者45名、指導者22名。

◎例年の贈呈内容

- ・参加者：賞状＋メダル＋干支の置物
- ・指導者：干支の置物

◎干支の置物について

- ・これまで使用していた博多人形の干支置物（約1,720円）は製作終了・廃盤。
- ・代替品を選定、昨年とほぼ同額の予算内に収まる見込み。

◎結論

- ・新しい干支置物を採用し、現行案で進めることについて了承・承認された。

（6）剣道祭 参加賞について

- ・昨年使用していた記念品（ホウロウ製品）は、今年は入手不可となった。
- ・新たな記念品を選定、紅白饅頭との組み合わせとした。
- ・将来的には「記念品」か「紅白饅頭」のどちらかに整理する必要性も示唆。

(7) 全日本剣道連盟 称号・段位委員会からの調査依頼について (資料2)

- ・全日本剣道連盟・称号段位委員会より、二段から五段までの受審資格に関する改定案について調査依頼があった。
- ・改定案の内容は、初段から三段までは修行期間を各1年以上、四段および五段については修行期間を各2年以上とするものである。本県としては、これまでに四段・五段の受審年齢短縮について要望を提出しており、本改定案はその趣旨に沿うものであることから、特段の異議はなく、賛成（異議なし）として回答することとした。

(8) 全日本剣道連盟 登録料の改定に関するご意見伺いについて (資料3)

- ・全日本剣道連盟より、各段位および称号の登録料を改定する方針が示された。
これに伴い、県が徴収している登録料についても、現行のままでは赤字となる可能性があるため、見直しの検討が必要となっている。
- ・全剣連の改定案では、四段は6,000円から7,000円、五段は9,000円から10,000円へ引き上げられ、範士については75,000円から100,000円へと大幅な増額が予定されている。
- ・今後、全日本剣道連盟の正式決定内容を踏まえ、個人負担が大きくなることを考慮し、改めて検討する。

【確認事項】

(1) 二重登録者の六段審査受審に対する対応について

- ・神奈川県が東京から6段審査を申し込み合格した。
- ・神奈川県を退会し、東京都へ移籍とした。

(2) 三段以下審査会における申込漏れの対応について

- ・高校剣道部員段審査を申し込んだが、その後の手続き不備で受審できなかった。経緯を詳細に確認、当方の処理誤りを確認、本人に他地区での受審可能と伝えたが、来年春に受審するとのことで了解を得た。指導高校教員を通じ、謝罪。来年受審時に改めて謝罪する予定。
- ・経緯を踏まえ、種々の対応を検討、今後さらに必要な部分につき検討する。また、受付や審査に関するトラブルが発生した場合は、必ず県連事務局へ報告することを徹底する。

(3) 三段以下審査会の受審取止めに対する返金について

- ・三段以下審査会の受審取止めに伴う返金対応について、地区からの問い合わせがあった。
県実施の四・五段審査の場合、申込締め切り以後は返金しないとしている。
三段以下の地区審査については各地区で事情が異なり、対応も異なっている。審査委員会で各地区において具体的なルールを定め、周知する方向で検討することとなった。

(4) 全剣連への苦情相談の対応について

本年度にはいり、神奈川県剣道連盟会員より、実名での全剣連への提訴が2件あった。

それ以外にもパワハラ事例の目撃情報なども寄せられている。理事会において、重要案件として取り上げ討議することとなった。

(5) 神奈川武道祭について (資料 4)

- ・ 神奈川武道祭について、資料に基づき報告が行われた。開催日・会場・主催は資料記載のとおりで、参加団体は 10 団体、日本拳法連盟を含む構成であった。
- ・ 演武は、剣道（潮田中学校女子剣道部）、居合道（東海大学生 7 名・監督 1 名）、杖道（4 名）が実施し、リハーサル、ショート演武、本演武を行った。あわせて、初心者向けの体験コーナーも実施した。
- ・ 剣道場での女子小中学生錬成会では参加者が非常に楽しんでいて、質問コーナーで「試合の緊張」についての質問があり、「緊張するのは当然であり、その上で試合に臨むことが大切」との印象的な回答があったことが紹介された。また全日本女子優勝者へのサイン会も期せずして開催となり、対応してくれた高橋講師に感謝する。
- ・ 経費については、総額 15 万 5,980 円で、演武者や少年剣士、錬成会に関する費用である。
- ・ 全体として好評であり、来年度も開催を検討したいとの総括がなされた。

(6) 令和 8 年度 全剣連後援 剣道講習会（幼少年女子）について (資料 5)

- ・ 全剣連後援による剣道講習会（幼少年女子）を、10 月 18 日（日）開催予定として申請している。
- ・ 本講習会は、幼少年女子を直接指導すること自体を目的とするものではなく、幼少年女子を指導できる若手・中堅の女性剣士を育成することを主眼としている。これまでブロック単位で実施してきましたが、参加者が集まりにくいという課題があり、現在は全剣連が講師を派遣し、都道府県単位で開催できる制度となった。
- ・ 対象は、三段以上の女性剣士 50～60 名程度を想定、特に若い年代を中心とした、今後指導の中心となる世代を育てることを目的としている。小学生や幼稚園児を対象とした指導法を学び、子どもとの関わりを通じて、剣道の魅力を新たな視点で伝えられる女性指導者を増やしていきたいという考えとにかかっている。

以上の方針にのっとり、来年度以降も女子講習会および幼少年女子向け事業を継続的に進めていきたいと考えている。

(7) 県スポーツ課との打ち合わせについて

- ・ 内容については資料記載のとおりですが、まず飛知和副会長から、剣道研究会の開催結果について県に説明を行い、併せて国の方針について確認をした。
- ・ 国の「総合的なガイドライン」は 10 月に改定され、部活動の地域展開を今後さらに加速させていく方針であるとの説明だった。具体的には、休日については改革実行期間内に、原則すべての学校部活動で地域展開の実現を目指すこと、平日については課題を一つずつ解決しながら、段階的に改革を進めていくという考え方。
- ・ 県の動向としては、国のガイドラインを見極めつつ、今後の対応を検討している段階とのことでした。特に課題となっているのは、県内の部活動の実態に地域差が非常に大きい点がある。県西部な

どでは部活動自体が成立しない地域がある一方、川崎市などでは部活動に積極的な教員が多いなど、状況は大きく異なっている。

実例として、ある地域では中学校が1校のみで、部活動はサッカー部1種目しかなく、生徒が多様なスポーツに触れる機会がないことを、町の教育委員会が深刻な課題として捉えているとの説明があった。このため、県としては国が示す一律の方向性では対応が難しく、今後は地域の実情を丁寧に把握しながら進めていくことが現実的な課題であるとの認識。

- ・次に、来年度の外部指導者報酬の予算について確認したところ、減額する予定はなく、今年度並みの予算は確保したいとのことだった。

外部指導員の報酬は、国・県・市がそれぞれ3分の1ずつ負担する仕組みとなっており、市町村が3分の1を負担できる財政力を持たなければ、県や国に対して要望を出すことができない。

例えば、市が10万円しか負担できない場合、国10万円、県10万円を合わせた総額30万円が上限となります。一方、市が100万円を負担できれば、総額300万円の予算が確保できることになり、この点で市町村間の格差が大きく生じている。

また、外部指導員は顧問と同等の責任を持って部活動を担う立場であるのに対し、外部支援員は技術指導に限定され、市の全額負担となり、補助金制度はない。したがって、支援員に関する予算も市町村の財政状況に大きく左右される。

県としては予算を削減するのではなく、市が一定の予算を確保しなければ、県としても補助ができない仕組みである、という整理であった。

- ・剣道連盟としては、伝統的に会費を徴収して指導する文化が乏しく、これまで多くがボランティアとして青少年の健全育成に取り組んできた。そのため、地域展開に伴い過度な受益者負担が求められることについては、慎重に考える必要があるとの意見を伝えた。
- ・最後に、県立武道館の備品更新についても要望を行い、これは昨年度の担当グループであるため、グループ長に伝えるとの回答を得ました。

〈補足意見〉

- ・補足として、県議会関係者および県スポーツ課との意見交換の中で、剣道以外の競技団体からはまだ具体的な提案が出ていない中、剣道連盟の取組は非常に前向きで助かっているとの評価があった。

「部活動の学外展開」という言葉が、学校から切り離すものと誤解されがちだが、実際には学校内に外部の力を取り込み、教員の負担を軽減しながら部活動を継続する仕組みが重要であるとの認識で一致した。

一方で、校長会の理解が大きな課題であり、当然ながら、外部指導者が校内に入ることへの責任問題や安全面への懸念があることも確認された。これについては、保険加入など受益者負担を含めた制度設計を行うことで、一定の解決が可能と考えられる。

今後は、校長・教員・外部指導者の三者が顔の見える関係を築き、外部指導者も個人ではなく支部など組織的なバックアップのもとで関わる体制づくりが重要であると考えている。

剣道特有の課題として、防具の持ち運びが難しい点があるため、複数校で1か所に集まって稽古を行う方式などの場合には、現実的な運用方法を検討していく必要がある。

制度設計は必要だが、意欲があれば十分実現可能であるとの手応えを得た打ち合わせだった。

- (8) 学校法人ホライゾン学園への剣道指導者の派遣について
 - ・幹部会決定を受け、東京都国分寺在住の加藤初美氏に指導を委任することとした。
- (9) 令和7年度 神奈川県スポーツ優秀選手表彰の候補推薦について
 - ・個人 高橋 萌子、団体 潮田中学校女子剣道部を推薦している。
- (10) 令和7年度 幼稚園児の剣道修了者に対する修了証の贈呈について
 - ・例年通り配布を希望する幼稚園に贈呈する。

【大会・講習会等予定】

- (1) 第72回神奈川県剣道大会の開催について
 - ・12月7日(日) 神奈川県立武道館で開催
- (2) 第158回全剣連「社会体育指導員剣道(初級)および
公益財団法人日本スポーツ協会「剣道コーチ(専門科目)養成講習会について
・12月12日(金)～14日(日) BumB 東京スポーツ文化館(東京都江東区)で開催
- (3) スポーツ庁委託事業 授業協力者養成講習会について
 - ・12月20日(土) 神奈川県立武道館(小道場)で開催
- (4) 全剣連主催 第30回女子剣道審判法講習会について
 - ・1月10日(土)～11日(日) 兵庫県立武道館(姫路市)で開催
- (5) 令和7年度神奈川県剣道連盟 新年会について
 - ・1月15日(木) 18時～ロイヤルホールヨコハマ(中区山下町90)で開催
- (6) 第73回全日本都道府県対抗剣道優勝大会 神奈川県予選会について
 - ・1月17日(土) 神奈川県立武道館で開催
- (7) 指定審査員・審判員研修会について
 - ・1月25日(日) 神奈川県立武道館で開催
- (8) 神奈川県称号審査会について
 - ・2月7日(土) 神奈川県立武道館で開催
- (9) 剣道四・五段審査会について
 - ・2月15日(日) 神奈川県立武道館で開催

(10) 剣道（剣道形）講習会について

- ・ 2月21日（土）神奈川県立武道館で開催
- ・ 令和8年から講習会の弁当代（希望者）を1,100円とする

(11) 剣道六・七段受審者講習会について

- ・ 2月23日（月・祝）神奈川県立武道館で開催

(12) 第24回神奈川県剣道祭について

- ・ 3月1日（日）神奈川県立武道館で開催

【審査会結果】

① 剣道審査会合格者

- ・ 愛知審査 剣道七段：9名合格、剣道六段：5名合格
- ・ 東京審査 剣道七段：34名合格、剣道六段：63名合格、剣道八段：1名合格
- ・ 剣道錬士：59名合格、剣道教士：38名合格

② 居合道審査会合格者

- ・ 居合道錬士：7名合格、居合道教士：4名合格
- ・ 居合道六段：14名合格、居合道七段：10名合格

③ 杖道審査会合格者

- ・ 杖道錬士：3名合格、杖道教士：1名合格

【大会結果】

(1) かながわシニアスポーツフェスタ 2025 剣道大会

(2) 第73回全国青年大会

(3) 第72回神奈川県高等学校新人剣道大会

4.その他

(1) 事務局の年末・年始休暇について

- ・ 事務局の年末年始休暇は12月29日（月）～1月6日（火）

※次回の幹部会議は、1月8日（木）13時～ 神奈川県立武道館

※理事会は、12月18日（木）18時～ かながわ県民センター

5. 閉 会